

花と木の実践養成教室

令和7年7月22日（火）

花壇デザインについて たのしく花壇づくり

花壇をつくる時に必要なのは、花壇の形態や周囲の状況を考慮して、デザインを考えます。

また、設置期間によっては、植え付ける花株の間隔も変わってきます。

I、花壇をつくる前に 立地条件チェック

○日照時間

日照時間により、日光を好む植物を植えるのか、日陰を好む植物を植えるかが決まります。

○周囲の建造物や植物との調和

建造物や植物の形や色など総合的に考えて調和のとれた花壇のデザインにします。

○面積と形

正方形や長方形など形の整った花壇のデザインは考えやすいですが、形に変化のあるような花壇のデザインは難しく、変化を生かした自然花壇にすることが多いです。

II、花壇デザインの基本スタイル

○形による分け方

☆定型花壇☆ 形が決まっている花壇のことで、配色と草丈の低い草花でまとめ美しさを表現する花壇が多いです。



☆ボーダー花壇☆

建物やブロック塀などに沿う形に作られた花壇で、多年草や丈の高い植物を取り入れダイナミックに仕上げ、背景との調和で花壇を引き立たせる効果があります。



☆立体花壇☆

壁や階段などを利用して立体的に仕立てる花壇で、ハンギングバスケットなどのコンテナで高低差を付けて飾る花壇です。



☆立体花壇☆

草花とレンガ造りの門柱との調和を取り、立体的な演出効果があります。



☆コンテナ花壇☆

木の枝・つる・竹などを利用して手作りのハンギングバスケットに観葉植物を植え付けて飾っています。



○植栽方法による分け方

☆整形花壇☆

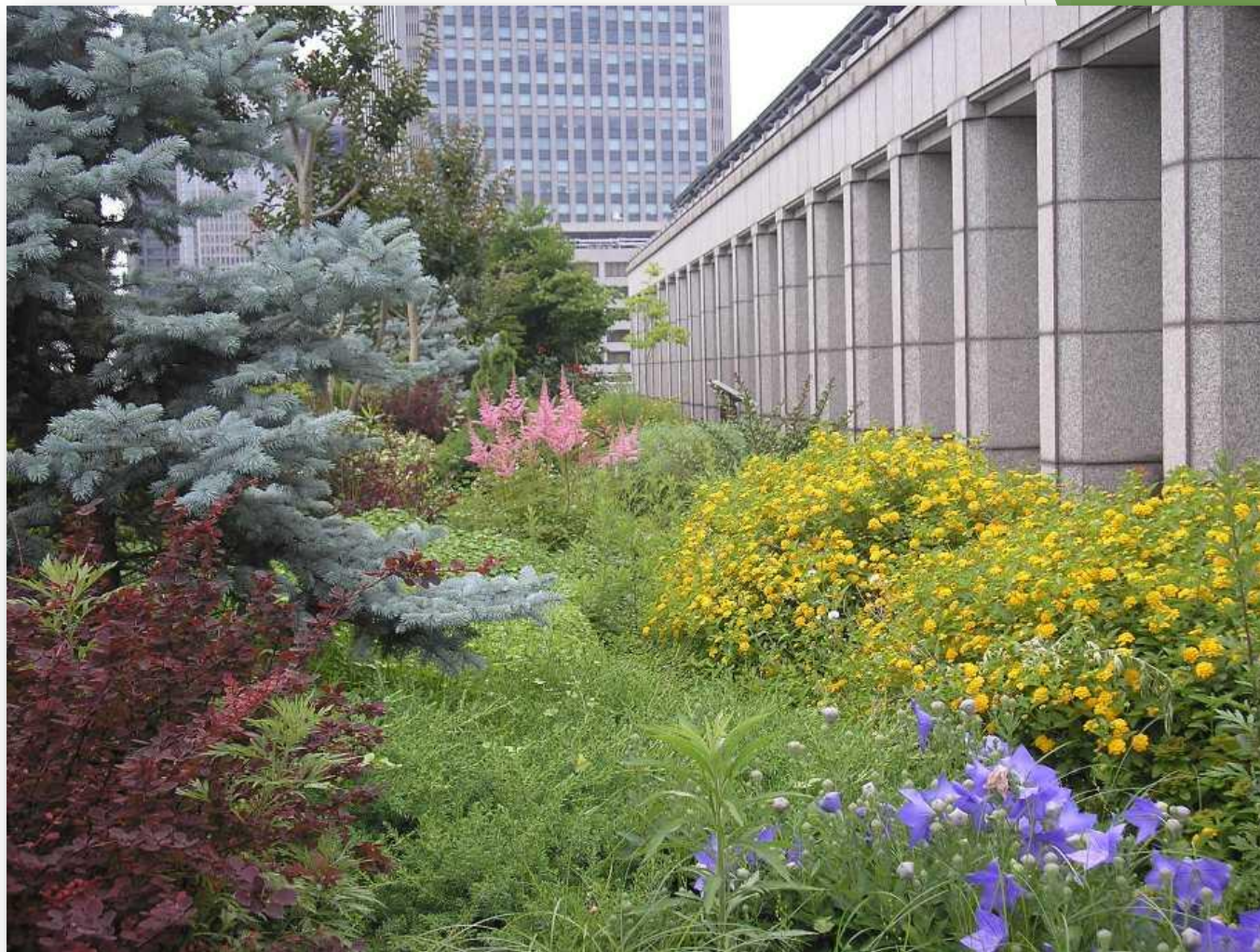
花壇の形状や大きさには関係なく、正確に整えられた形の花壇に草花を数多く活用し、配色などのデザインを楽しむ花壇です。



チューリップ

☆自然花壇☆

整形花壇とは対照的で、草花の個性を生かして、周囲との調和や組み合わせる植物のバランスなどが重要で、それぞれの植物のもつ個性を生かして、配置と配色を上手くまとめる必要があります。



Ⅲ、花壇づくりのポイント

<作品の印象>

装飾的 ・ ・ 規則的な模様仕上げたもの

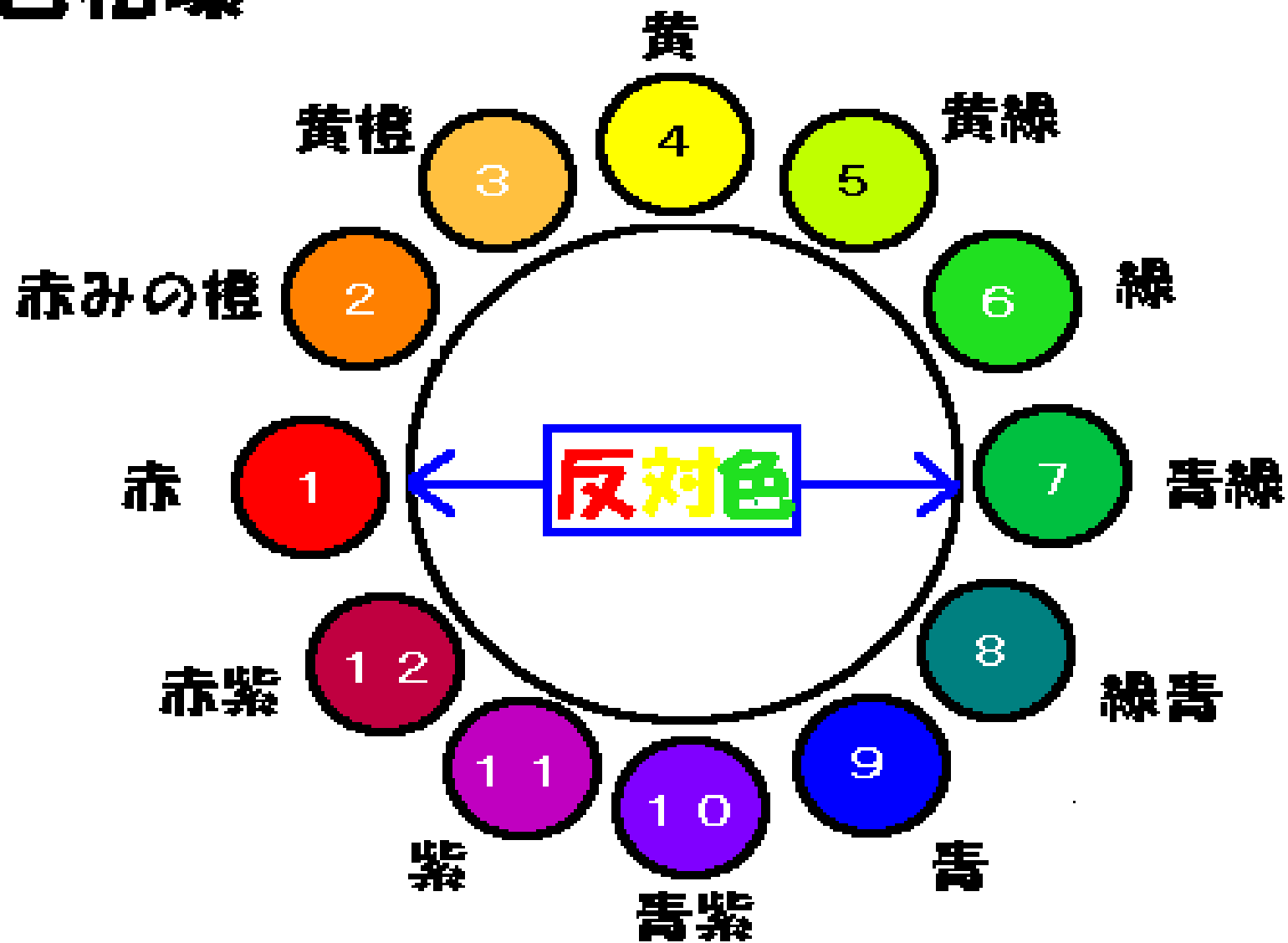
自然的 ・ ・ 自然な感じに仕上げたもの

<配列>

対称的 ・ ・ 左右対称で静止状態

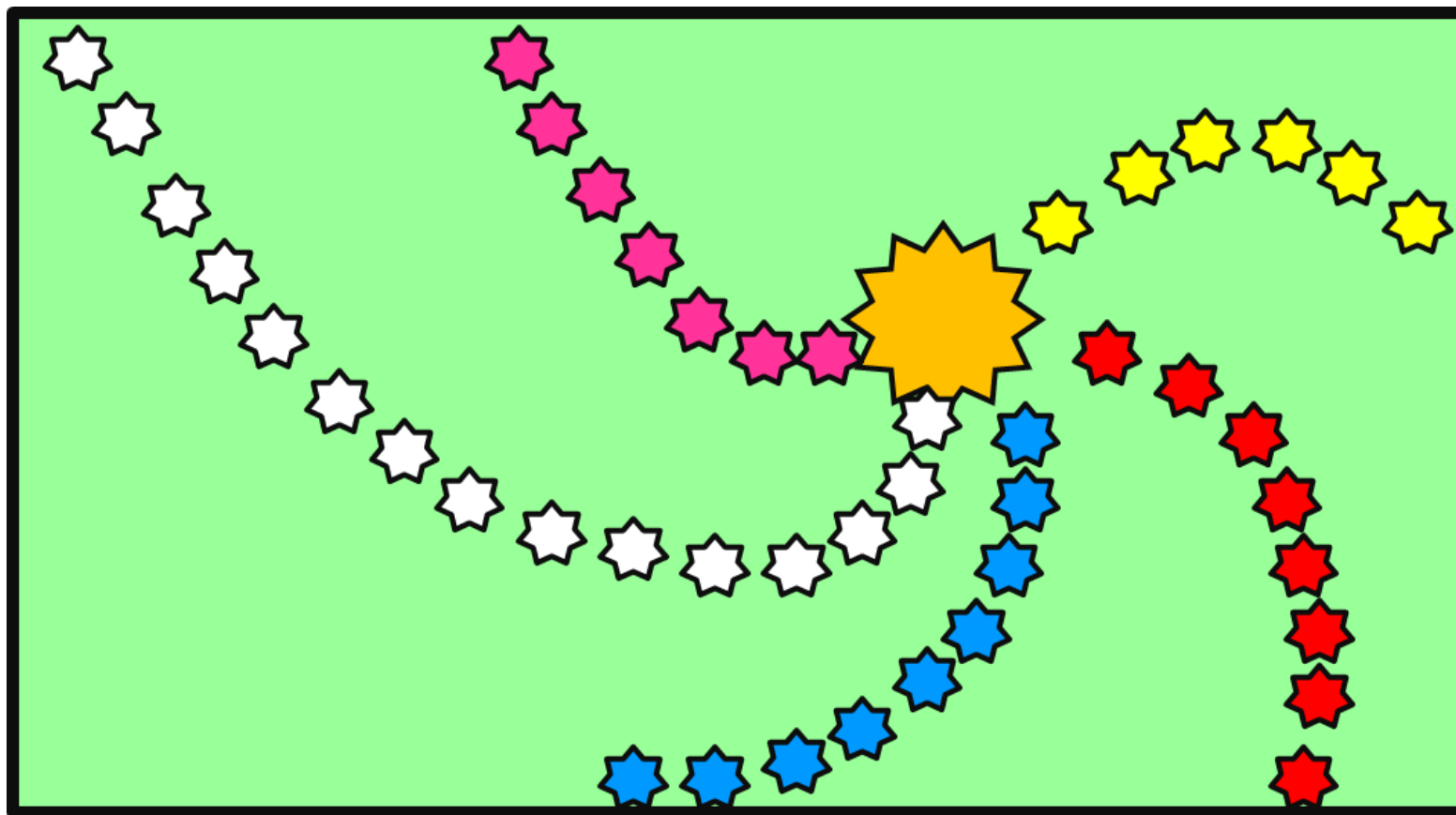
非対称的 ・ ・ 自然な感じで動きがある

色相環



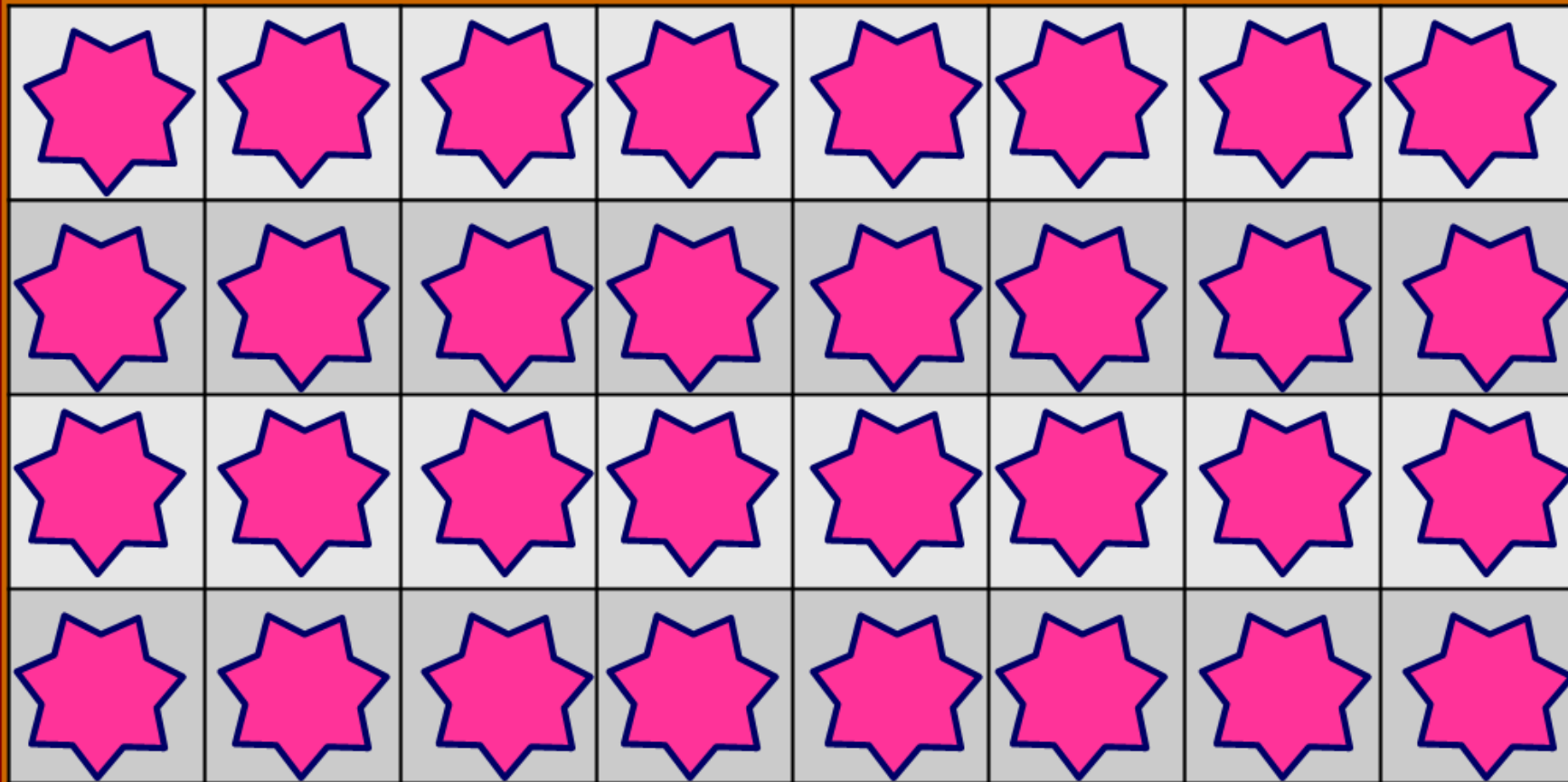
<フォーカルポイント>

主となる植物や装飾物を置き、リズムをつける。
非対称的に動きのある演出をする場合は、センターではなくポイントとなる植物や装飾物の配置する比率を変えます。これは、リズムの付け方の一例です。



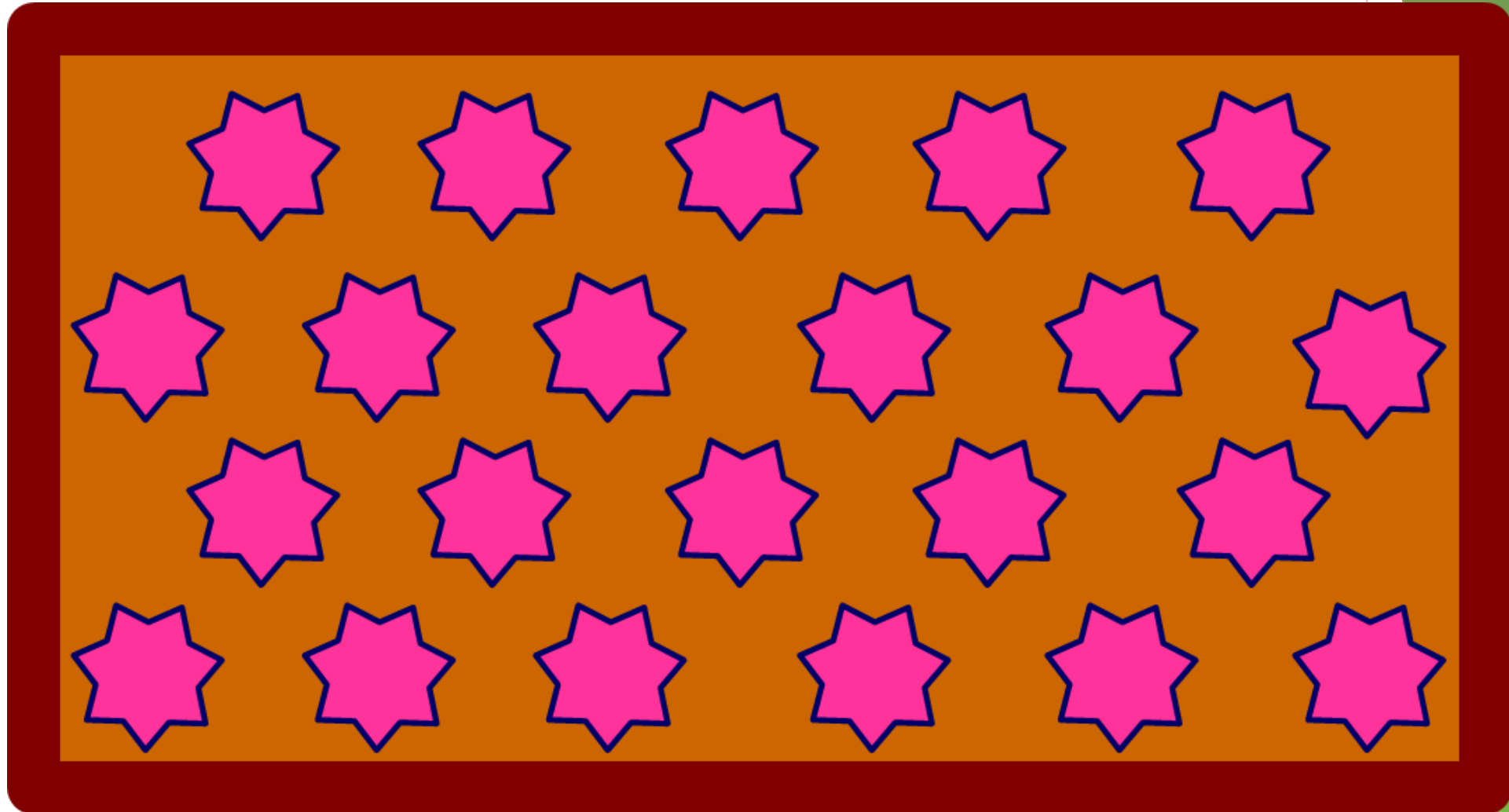
<美しく植え付けましょう>

正条植え



<美しく植え付けましょう>

ちどり
植え



<美しく植え付けましょう>

●	●	●	●	●	●	★	★	★	★
●	●	●	●	●	●	★	★	★	★
●	●	●	●	●	●	★	★	★	★
●	●	●	●	●	●	★	★	★	★
●	●	●	●	●	★	★	★	★	★
●	●	●	●	●	★	★	★	★	▲
●	●	●	●	★	★	★	★	★	▲
●	●	●	●	★	★	★	★	▲	▲
●	●	●	★	★	★	★	▲	▲	▲
●	●	★	★	★	▲	▲	▲	▲	▲

花壇のデザインに応じて、草花の種類や株数を計算する必要があります。

花壇のデザインを考えて、植える草花や株数を計算する方法として、縮尺図を作り考えていくと便利です。

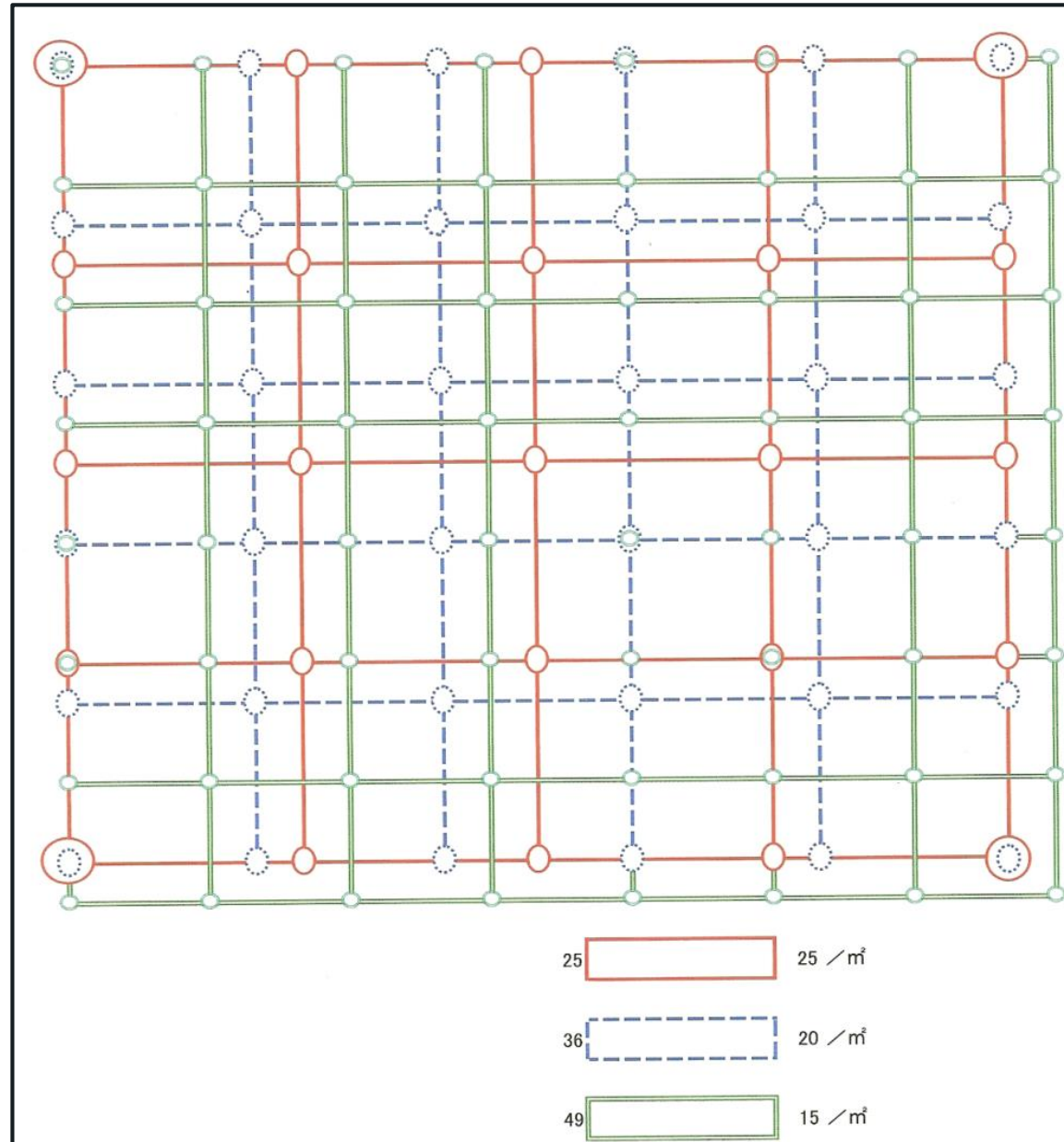
方眼紙などの升目のある用紙を利用して、縮尺図を描きます。

例)

図のように1 m²の花壇に、10cm間隔で正条植えにすると、縦10株・横10株で必要になる株数は100株になります。

株間を25cm間隔をあけて植え付ける場合は、縦5株・横5株になり25株が必要になります。

1m×1mの株数



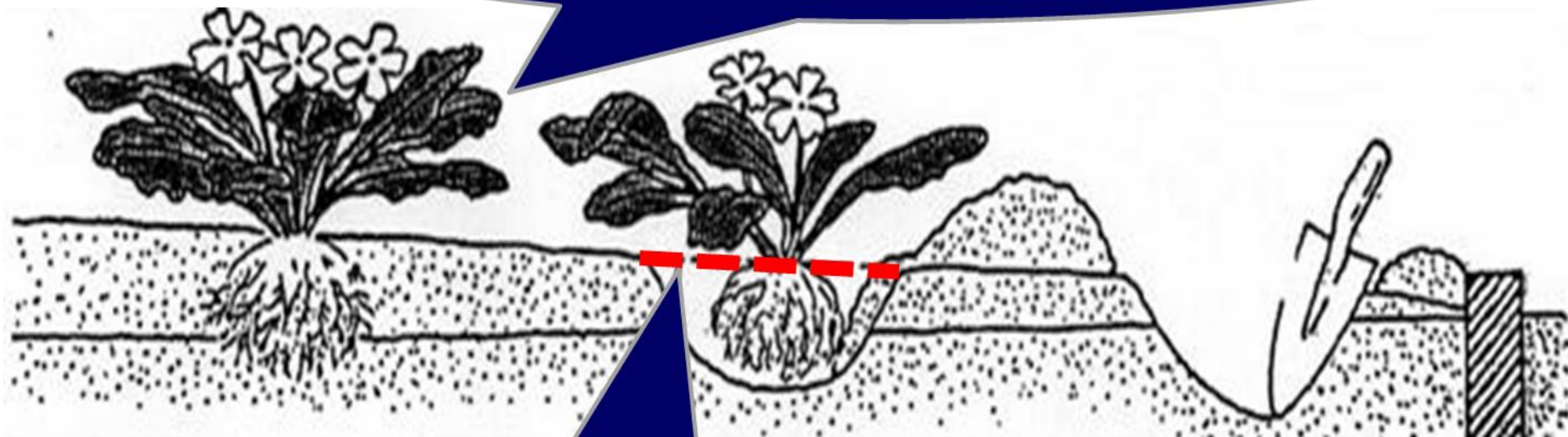
正条植え: 25cm間隔、25株/m²



千鳥植え: 25cm間隔、23株/m²



1株植えたら、表土をならしてから
次の株を植える。



株元の高さは、
表土の高さに揃える。



<広域花壇>

真直ぐ植える為に
ラインを引きます。

<色使いを楽しむ>

同系色でまとめる

同系色の草花でまとめますが、草丈や花形の異なる品種と組み合わせで変化をつけます。

明度(明るさ)の差が大きい花色を組み合わせ、配色に変化をつけて楽しめます。



＜分類の違う植物と組み合わせる＞

球根類との組み合わせ

チューリップは、混植することができます。スイセンのように植えたままにしておく球根植物は、前後に配置して植え込みますが、それぞれの草花の高さのバランスを考えて種類を選ぶようにします。

(パンジー、チューリップ)



剪定枝を利用した 丸太列車プランター

美しい草花を植えるだけでなく、リサイクルで作ったプランターを子ども達の好む形に利用することで、興味を持ち植物をより大切にしてくれることを期待します。



お正月飾り

松・竹・梅・葉牡丹など縁起物の植物を使い、灯籠や竹垣を使い石を組んで、枯山水風に仕上げた花壇になっています。



ミニチュアハウス花壇（香露園交差点花壇）

この造形物のハウスは、ボランティアさんがモルタル造形（セメント）で作られています。



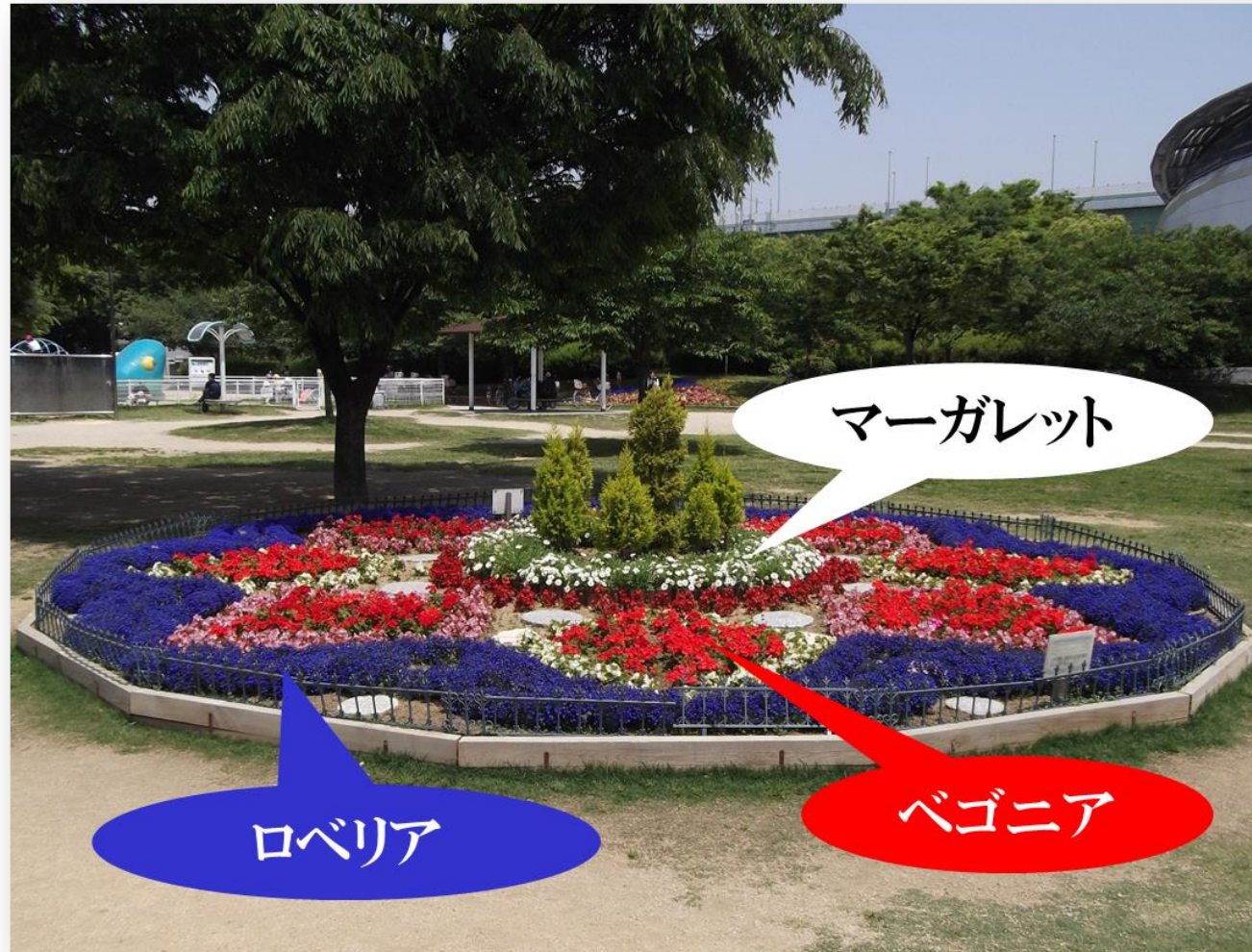
千支花壇（うさぎ）

葉牡丹で絵柄を描いて作られた花壇です。



円形花壇

円形を利用して星型にデザインされ、色がはっきり出るよう配置されています。



菊花壇

菊だけでつくられた和の花壇です。2010年に「太閤おろしの滝」と名打って、立体的に作製された菊の大花壇です。(約10000株)

山間から流れる滝を白花の小菊で表現し、ダイナミックに演出しています。



菊花壇

不定型花壇で、菊だけでつくられた和の花壇です。高さを出すために割り竹を組み立体的に作られています。

石を配置し、竹垣を設置することで花壇が引き締まります。



菊盆景花壇

松などの自然樹形の仕立て方で、菊を配置し石組みや敷き石で園路を作り、こんな庭を歩きたくなるようなイメージで作られています。

一面に緑色に見えるのは苔ですが、広範囲なので菊の植え付け後に、乾燥させた苔をバラバラに砕き、水で練り上げてから敷いています。



ふれあい花壇

公園の一角を地域の方々が活動している花壇です。

花壇内に仕切りを設けて、草花管理の負担軽減を兼ねたデザインになっています。



スペード



ハート



植物で形や文字を描くのは非常に難しく、植え付けた時は美しくても成長すると形が乱れるので、メンテナンスが大変になります。描く場合は、鮮やかな花色で株が乱れにくい種類を選びます。

また、レンガや石、枝を利用して縁取りする方法もあります。形を引き締める為に、反対色の資材（バーク堆肥）でくっきりさせます。この時、資材の大きさが違うものを使います。

中庭

▶ ビフォー

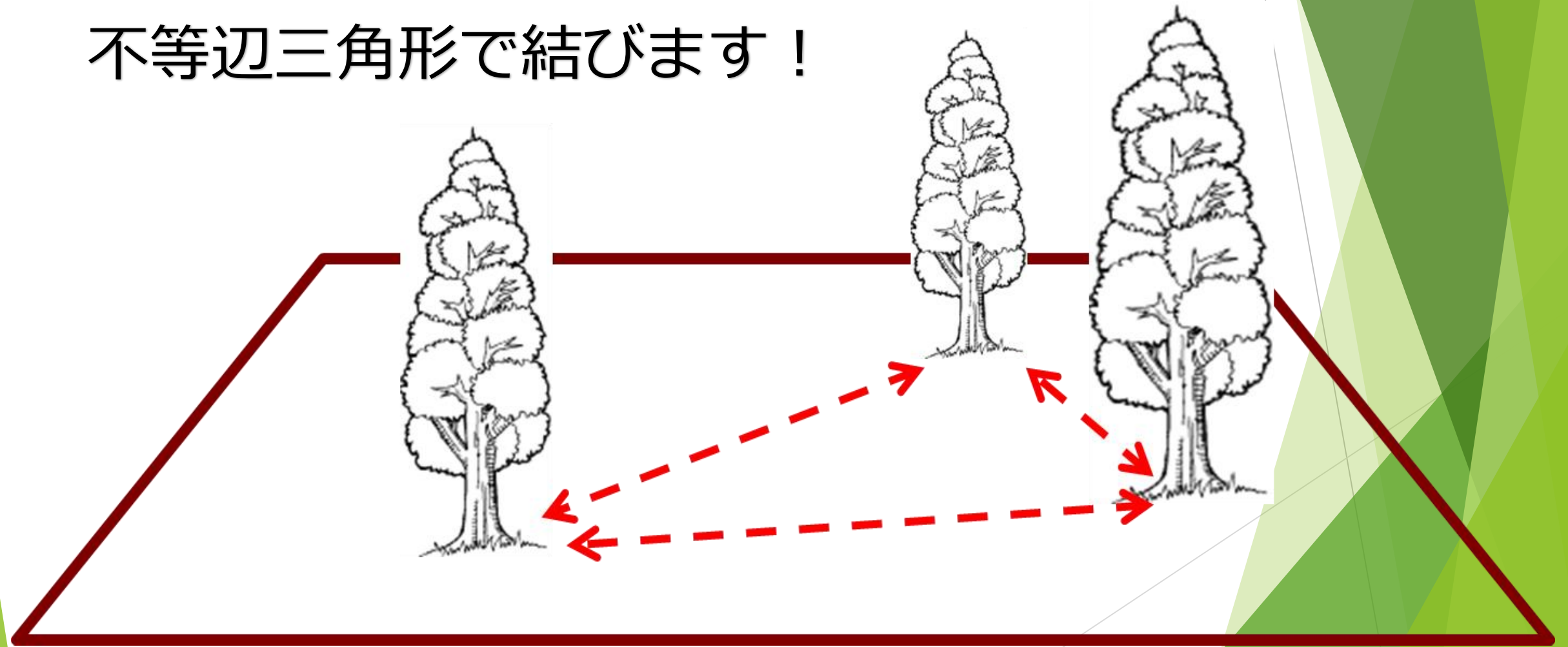
▶ アフター



中庭で日当たりの悪い環境では、使用する植物が日陰になっても生育に支障がでない種類を選びます。デザインを考える時に、水やりなど作業をする時に必要な通路を確保しますが、通路も庭や花壇の一部なので美しく演出します。インターロッキングを緩やかな曲線に並べてスペースが出来るように設置し、玉竜を植え付けています。

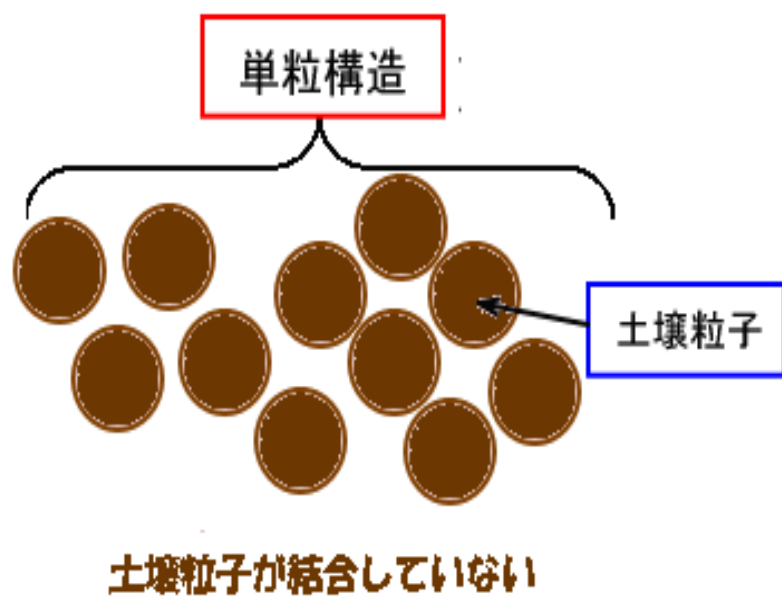
自然花壇の樹木の配置

不等辺三角形で結びます！

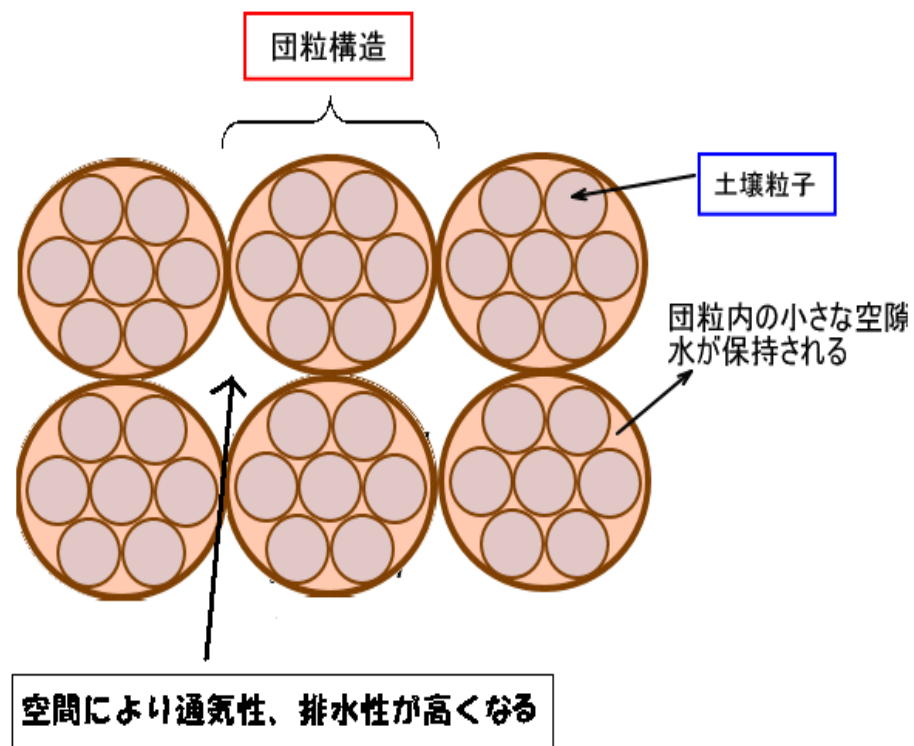


土の団粒構造について

- 単粒構造の土



- 団粒構造の土



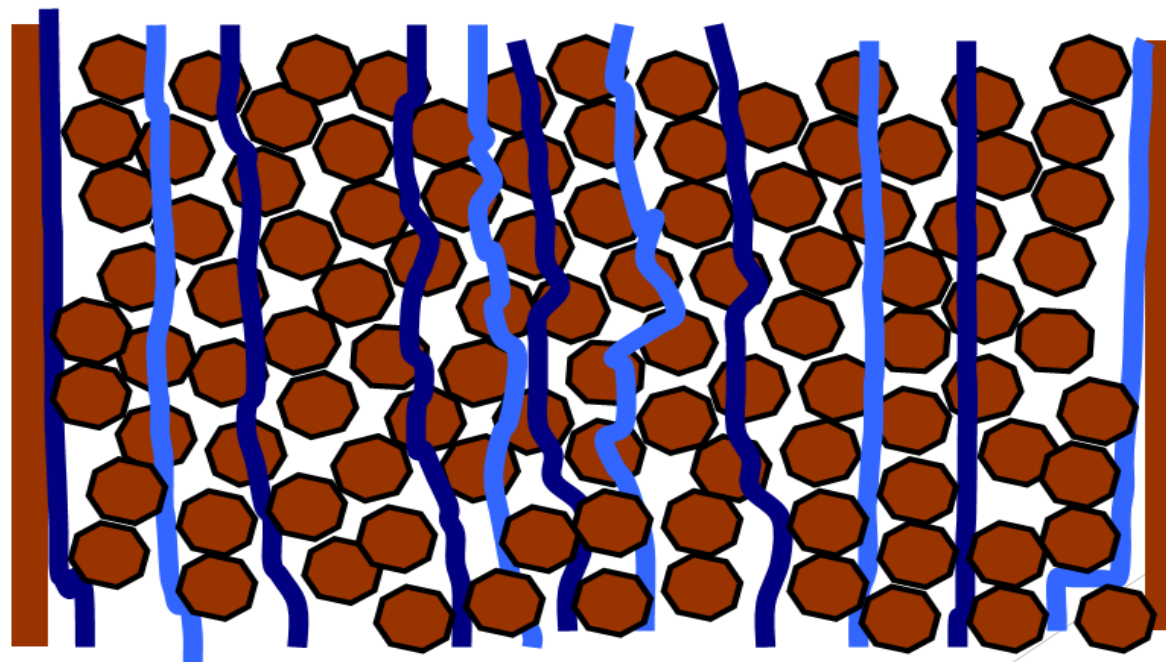
単粒土壌が有機物などにより接着、結合し団粒を作る

団粒構造の良い土

水分

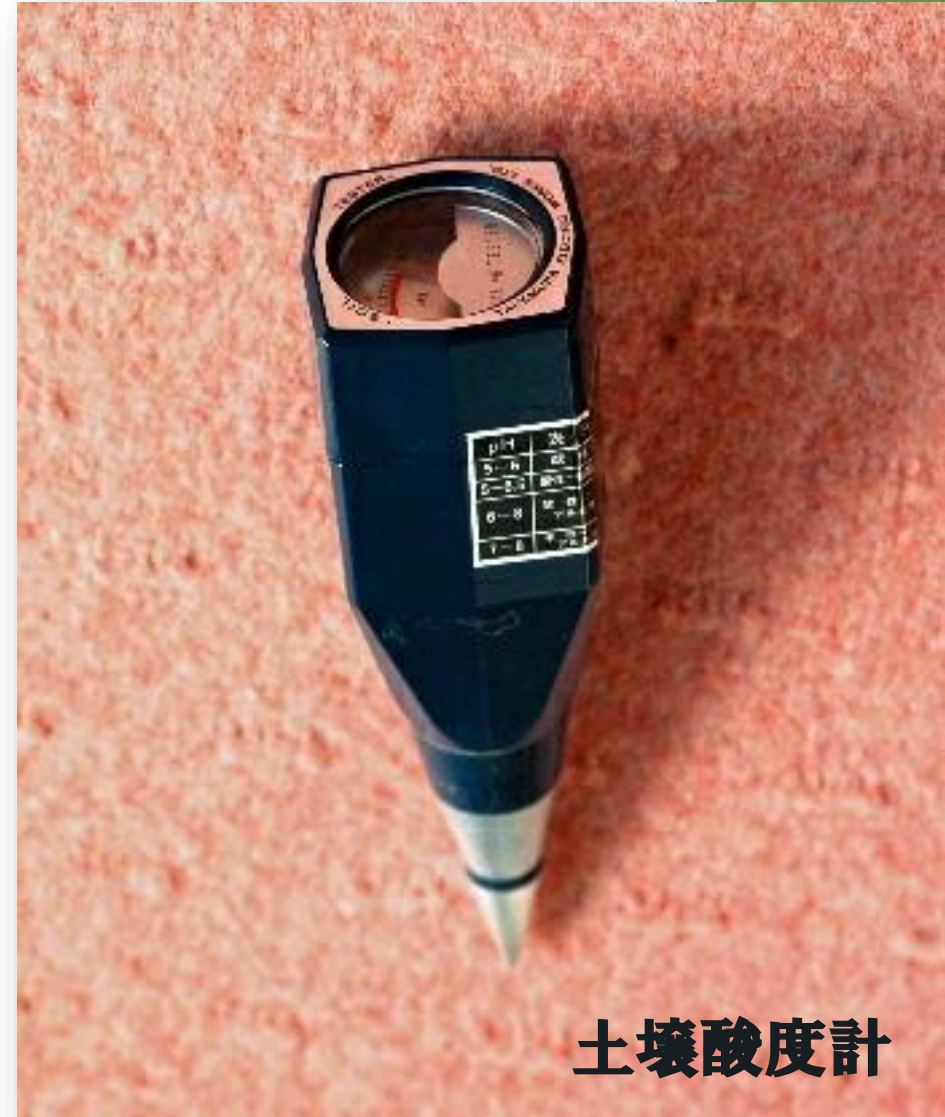
酸素

水を与えると同時に酸素が土の粒子のすき間を流れて古い空気を押し出し、一定の水分が保持されます。



適正な土壌酸度

- 酸度の調整
- ・アルカリ性→ピートモスなどで中和する。
- ・酸性 →石灰資材で中和する。



土壌酸度計

酸度の調整

○酸度(pH)チェック



弱酸性5.5～6.5が目安

古い土は、酸化していく(根酸、酸性雨など)

※土壌改良が必要(苦土石灰・有機石灰・くん炭など)

様々な花壇形態に応じたデザインや植物の暑さ対策について、活発な意見交換を行ないました！

